

# 株主通信 (第56期)

2017年4月1日～2018年3月31日

株式会社 スパンクリートコーポレーション  
**SPANCRETE**  
CORPORATION

証券コード 5277

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2016年3月期、当社はスパンクリート事業の減損により創業以来最大の約15億円の赤字を余儀なくされ、大変なご心配をお掛け致しました。

2016年6月の新経営体制移行後、コスト削減及び払戻に取り組んだ結果、2017年3月に黒字転換を果たし、2018年3月期には増収・増益により復配を行える状況になりました。

2019年3月期は足もとの原材料・燃料費上昇及びトラック物流確保難の業界環境により、増収ながら減益の見通しですが、前年同様、期初の見通しを上回れるよう、全社一丸となり尽力致してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年5月

浮田 聡

代表取締役社長



## 事業の概況

### ■事業の概況／売上高・損益状況 (2018年3月期)

当社が属する建設業界は、国内景気が緩やかながら成長を維持する中で、遅れていた東京オリンピック関連工事の本格的な着工が始まり、公共投資も底堅い動きです。

その一方で、人手不足などに起因する労働単価の高騰や資材価格の上昇の影響が顕在化しており、楽観はできない状況です。

その中で当社は、営業販売の強化、製品の品質及び生産効率の向上、コストの削減に注力した結果、期初の業績見通しを上回り、売上高3,394百万円（前期比35.4%増）、営業利益239百万円（前期比78.4%増）、経常利益260百万円（前期比75.2%増）、当期純利益206百万円（前期比124.0%増）となりました。

### ■事業部門別業績 (2018年3月期)

#### <スパンクリート事業>

当期は、売上数量が前期比26.1%増加し、売上高が、3,086百万円（前期比38.8%増）、営業利益81百万円（前期比1,991.4%増）となりました。なお、当事業で第1四半期会計期間に減損損失7百万円を特別損失に計上しています。

#### <不動産事業>

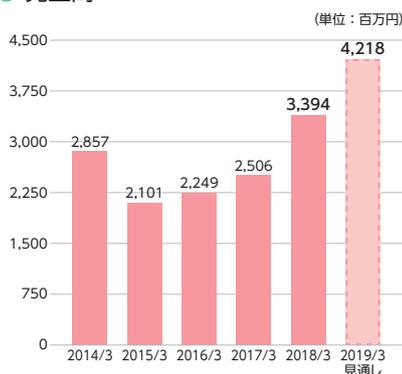
賃貸用オフィスビル4棟の賃料収入が安定収益源となっています。当期は、売上高308百万円（前期比8.9%増）、営業利益157百万円（前期比21.0%増）となりました。

### ■2019年3月期業績見通し

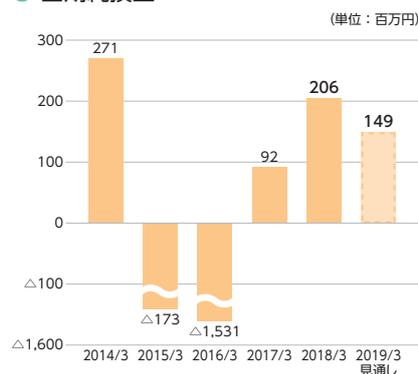
2019年3月期は、原材料や燃料などの価格の高騰や輸送トラックの確保難による運賃増などコストアップが予想され、売上高4,218百万円、営業利益161百万円、経常利益177百万円、当期純利益149百万円の増収減益を見込んでいます。

## 財務ハイライト

### ● 売上高



### ● 当期純損益



### ● 自己資本比率

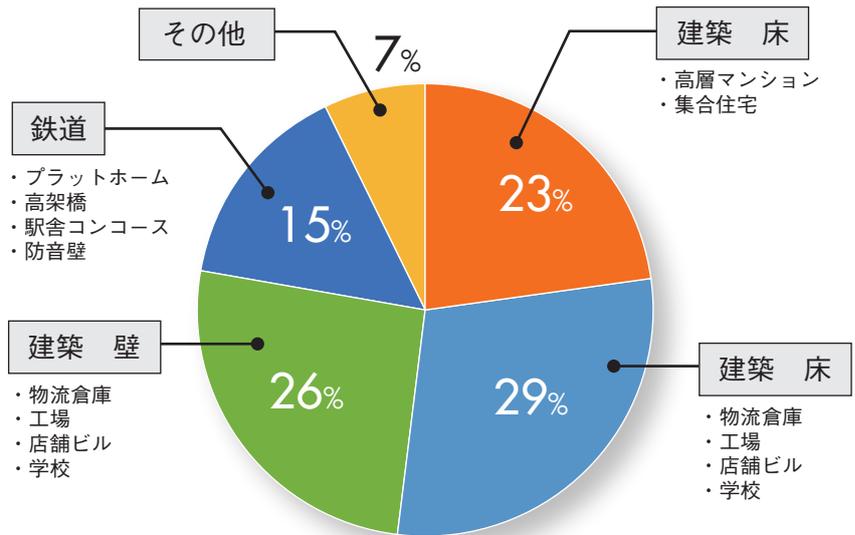


## 営業活動状況

2018年3月期（第56期）上半期は、冷蔵倉庫や物流倉庫などといった採算性の良い案件を着実に実績に繋げることで、計画を上回る売上高を確保することができました。下半期に入り、オリンピック・パラリンピック関連案件の着工が始まり、製品の販売を開始しました。また、1年を通じてマンション物件や建築施工案件も手堅く売上に繋げることができました。一方、鉄道関連では首都圏を中心に鉄道各社がホームドア設置工事に拍車をかけており、関連してプラットホーム製品の出荷が好調であります。

2019年3月期（第57期）は、オリンピック・パラリンピック関連案件の建設工事が本格的に進むことに加え、大型レジャー施設での施設整備事業や鉄道各社のホームドア施設の整備が進むことなどが見込まれ、好調な出荷を見込んでおります。

## 第56期 スパンクリート売上構成



●マンション（合成床）



●総合スポーツ施設（合成床）

栃木県宇都宮市に新しく建設中の、スタジアムにスパンクリート合成床が採用されました。地上4階建て、観客席数25,000席、Jリーグ基準を満たすサッカー場及び日本陸連第1種公認の全天候型陸上競技場です。

競技場特有の楕円形状のため相当な手間がかかりましたが、スパンクリート合成床工法の長所を生かし工期短縮に貢献しました。

2019年9月の完成を目指しています。

ホームページ  
のご案内

当社ホームページ

<http://www.spancretecorp.com/>

最新のIR情報につきましては、  
当社のホームページ「IR情報」を  
ご参照ください。

「財務情報」  
検索はこちらから▼

スパンクリート IR 検索

